

永明小永明中の 校歌オルゴール

150年の映像とオルフェウス寄贈

同窓生土橋さん
こだわりの音色

ちの地区運協

茅野市のちの地区コミュニティ運営協議会（小池義一会長）は、同地区（永明）の150年の歩みを伝える映像とともに永明小学校永明中学校の校歌を奏でる50弁の高級オルゴール「オルフェウス」（ニデックインスツルメンツ製）を同校に寄贈した。映像を編集した同窓生の土橋新一さんがオルゴールも監修。高級オルゴール開発の技術顧問を務めた父親の在りし日の面影を追いつながら、深みのある音色にこだわり抜いた。（野村知秀）

オルゴールは、同地区の歴史と現在や同校を紹介する映像のBGMに使用するため製作した。昨年11月に映像制作が決まった際、過去に似たテーマに携わった経験から当初



永明小学校永明中学校の校歌を奏でる高級オルゴール

気乗りしなかった土橋さん。だが、校歌を奏でる50弁オルゴールの製作に話が及ぶと、かつて父が愛した高級オルゴール製作に自らが関わることになった。

土橋さんによると、父・宏さんは高校卒業後、三協精機（現ニデックインスツルメンツ）に就職。36歳で事業部長となり、世界的なヒット作となる機械式デジタル時計を開発した。その後、いったんは会社を離れるが、高級オルゴール開発の技術顧問として再び三協精機に戻り、技術課題を克服して約3年後には「オルフェウス」の製作が始まった。

土橋さんと会社側とのオルゴール作りは昨年12月から本格的にスタート。編曲を重ねる中で、父との思い出や永明中学校校歌に対する自らの強い思い入れの記憶が呼び覚まされていた。1月下旬にはほぼ完成したものの、終盤のフレーズの1カ所が「納得で

きない」と、追加修正を求めるほどのこだわりぶりだった。

同地区運協が製
ゴールの他に、十
鳴板を自費で購入
寄贈した。オル
て鳴らすと、こ
に深みが増した。
土橋さんは「母



永明小学校永明中学校で行われた寄贈式で鳴らしたオルゴールに耳を傾ける関係者＝7日（土橋新一さん提供）

るるに近保永しつれもびたちで携しあ